

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730289

研究課題名(和文)近代華南におけるヒトの移動に関する社会経済制度の研究：労働者の移動と人身売買

研究課題名(英文) Social and economic institutions related to emigration from South China: Migration of workers and human trafficking

研究代表者

村上 衛 (MURAKAMI, Ei)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：50346053

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、華南沿海地域の人間の移動に関する既存の経済・社会の制度と、それが19世紀後半から20世紀前半における変容を検討した。まず、当該期の華南沿海地域の社会経済変動の全体像を明らかにし、そのうえで華南から東南アジアへの移民における既存の華人移民ネットワークが根強く優位性を保ったことについて、政治・経済・社会的側面からその理由を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study analyzed the existing social and economic institutions related to emigration from South China and examined the changes in these institutions from the mid-19th to the mid-20th century. First, we examined the social and economic changes in South China during this period. Second, we studied the political, economic, and social reasons for the continuing superiority of the existing migration network of the Chinese over foreign governments and companies in the emigration process from South China to Southeast Asia.

研究分野：中国近代社会経済史

キーワード：華人 華工 廈門 福建 イギリス 香港 シンガポール 客頭

1. 研究開始当初の背景

1980年代に日本の中国経済史研究はアジア貿易圏論が提起されて大きな転機を迎えた。中国経済史研究においては、開港場を中心とするヒト・モノ・カネの動きが注目され、海関統計を利用した数量的な検討がなされた。一方、1990年代後半になると中国に長期的に存在する経済的な「制度」を探究する研究が進められてきた。

こうした動きの中で、ヒトの移動に関する「制度」に関する研究は、19世紀中葉に行われた苦力貿易に研究が集中し、圧倒的多数を占める東南アジアへの移民については移住先の研究が多く、移民そのものについては概括的な研究にとどまり、移民業務を行った組織や利権集団についての研究は行われなかった。

中国社会史研究においては、ヒトの移動に関しては人身売買に関する研究はあったが、そうした研究は経済史研究とは関連なく進められてきた。

2. 研究の目的

本研究は華南沿海地域のヒトの移動に関わる既存の経済・社会の「制度」と、それらが19世紀後半から20世紀前半における変動においてどのような影響を受け、いかなる問題が生じたかを解明する。具体的には以下のテーマを取り上げる。

(1) 華南から東南アジアへの労働力移動を検討する。特に成年男子の労働力調達のための組織のあり方とその変容を解明する。具体的には、20世紀初頭においてイギリス北ボルネオ会社が中国人仲介業者を介さない移民ルートを確保しようと試み、既存の中国人移民組織の抵抗に直面した問題などを検討する。それによって中国人組織のあり方と移民事業に関連する利権集団を解明し、最終的に中国人移民組織による移民ルートがなぜ優位に立っていたのかを解明する。

(2) 華南における子女の人身売買、特に開港場都市における人身売買を検討してその「制度」のあり方を解明する。

(3) 以上の問題に取り組みつつ、中国経済史と社会史の統合的な研究を進める。

3. 研究の方法

(1) 史料収集：文献研究の準備として、国内外の図書館において華南における移民に関連する漢文・英文・日本語の一次史料を徹底的に収集・整理した。日本国内においては京都大学の各図書館のほか、東洋文庫・東京大学総合図書館・東京大学東洋文化研究所において移民関連の漢文・英文史料を収集した。海外においては、イギリスの国立公文書館において東南アジアへの移民に係る外務省・植民地省などの文書を重点的に収集したほか、英国図書館には北ボルネオに関する文献、メトロポリタン文書館においては北ボルネオに進出していたイギリス企業の史料収

集を行った。

(2) 文献研究：以上の方法で収集した史料をもとに、19世紀後半から20世紀前半にかけての華南沿海の労働者移民の「制度」についての研究を重点的に行った。

(3) 発信：本研究の成果については、国内外の学会において積極的に発信するだけでなく、国内外の関連する研究者との交流を深めると共に、研究方法などについても絶えず見直しを行っていった。

4. 研究成果

(1) 文献研究

史料収集に基づく文献研究としては以下の2点が主たる成果である。

『海の近代中国』

2013年2月に『海の近代中国 福建人の活動とイギリス・清朝』名古屋大学出版会を公刊したのが最大の成果である。本書は3部に分かれており、海の歴史に関する10のテーマに取り組んだ。

第部の開港前については開港前の清朝による沿海秩序の崩壊について、アヘン戦争前における広東人・福建人のアヘン貿易活動とそれに対する清朝の対策、1830年代におけるカントンのアヘン貿易の利権、アヘン戦争時に「漢奸」と呼ばれた福建・広東の沿海民に対する清朝の対策を取り上げた。

第部では主に19世紀中葉の開港以降に進められた華南沿海の秩序再編について、治安とヒトの移動の観点から検討した。具体的には福建沿海における海賊問題とそれに対する清朝・イギリスの対応、華南における海難問題への清朝・イギリスの対策、華南における華人と小刀会の乱の関係、廈門を中心とする南北アメリカ大陸やオセアニアへの労働力移動でアル苦力貿易の問題を検討した。

第部の19世紀から20世紀にかけての世紀転換期については、19世紀中葉に再編された秩序が、1880年代～20世紀初頭に動揺したことを貿易の変動と華人の行動の点から検討した。具体的には廈門の貿易構造の変動を主要な輸移出品(茶・砂糖)と日本の台湾領有と関係づけて解明したほか、地方官僚によるアヘン課税問題、イギリス籍を主張してイギリス領事に保護を求める華人達が引き起こした問題を検討した。

以上の具体的なテーマの検討と合わせて、以下の3つのテーマを検討した。

：経済史研究としては長期的な「制度」について取引の特性と仲介者の機能を検討し、零細な取引を仲介者がその集束機能でもって秩序化するなかで、分節構造や複殻構造が繰り返し形成されてきたことを明らかにした。

：社会史研究としては沿海社会の管理に

注目し、イギリスはじめとする欧米諸国によって秩序の再編が進められたが、「近代的」制度による社会管理は一方的に進まず、開港場体制の整備と貿易の発展によって社会管理一層困難になる局面もあることが明らかになった。

：イギリスの役割については、イギリスが清朝によって実際に「請負人」とされていた側面を解明した。

本書により華南からの移民の背景となる近代の華南沿海社会の変動を解明し、移民に関わる社会・経済の長期的な「制度」についても大きく研究を進展させることに成功し、今後の中国移民史・海域史研究の基礎とすることができた。

北ボルネオ移民研究

本科研の最も関連する論文としては「植民地とネットワークの相剋 辛亥革命期、廈門における英領北ボルネオ華工募集事業を中心に」『東洋史研究』第72巻4号が最も大きな成果となる。本論文では、イギリス北ボルネオ特許会社が、辛亥革命期に廈門で行った移民事業を検討した。北ボルネオ植民地にとって、中国人労働者のリクルートの部分を仲介者の客頭に完全に依存し、移民の質が考慮されない上に高コストとなっていたことが問題であった。そこで北ボルネオ会社は中間の業者を排除して開港場である廈門において直接事業に乗り出すことになった。しかし北ボルネオ会社という植民地政府が労働者の募集に直接関与したために、外務省や香港植民地といった「イギリス」内部における調整に時間を要した。そのうちに辛亥革命の進展によって北京の中央政府及び地方当局も変わり、イギリス側は中国側との意思疎通が困難になっていた。そしてこの事業によって既得権益を失いかねない廈門の華人移民ネットワーク関係者は現地政府を動かしてイギリス商社に協力する中国人業者を逮捕させ、移民事業を封じ込めた。また、イギリスと中国の条約が、植民地政府の直接募集を極めて困難にするものであり、中英の外交交渉も問題の解決に至らず、北ボルネオ会社の直接募集事業は完全に失敗に終わった。ここから、既存の華人移民ネットワークの存在する華南において植民地政府や外国企業による移民の直接リクルートは極めて困難であることが分かり、華人の移民ネットワークの競争力は経済的合理性からだけでは説明できないことも明らかになった。そして、華人移民ネットワークは、ネットワークの周縁にとっては非効率的でコストも高く、労働者にとってもメリットは少なかったものの、東南全体としては十分に機能しており、東南アジア経済には不可欠なものであったとみなした。本論によって、これまで十分に検討されてこなかった華人ネットワークの様々な側面を解明し、今後の華人史研究の可能性を広げることになった。

(2) 発信

対外的な発信

大規模国際会議として台湾の中央研究院で行われた第4届国際漢学会議において、イギリス籍の華人の役割について報告し、また第16回世界経済史会議ではアヘン戦争前の広州周辺地域におけるアヘン貿易の利権について報告した。このほかにも、韓国の漢陽大学における近代中国の海の歴史に関する学術講演、成均館大学の東洋史学会春季大会における移民史に関する報告、フランスの社会科学高等研究院における4回にわたるセミナー（移民、海賊、漢奸問題、アヘン貿易）の報告、アメリカのプリンストン大学におけるワークショップにおける日中の比較史に関する報告など、海外において英語・中国語を使用した積極的な発信を行い、また国内においても国際ワークショップにおける報告を行った。このほか、外国語論文としては英文論文を5本、中国語論文を1本公刊した。これらによって本研究のみならず、それがよってたつところの日本の中国史研究の国際的な発信を行い、また海外の学者とのネットワークの構築によって今後の国際的な共同研究の基盤を形成することができた。

国内における発信

国内においては、所属する人文科学研究所内において社会経済的な「制度」に関する共同研究を主催するとともに、学会やシンポジウム、研究会における報告を積極的にを行い、関係する著書・論文を公刊、日本語による研究の発信を積極的に行った。以上の発信によって、中国史に限らない多様な研究者との交流が可能になり、より拡大された共同研究を行うことも可能になった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

村上衛、「植民地と移民ネットワークの相剋 辛亥革命期、廈門における英領北ボルネオ華工募集事業を中心に」『東洋史研究』第72巻4号、2014年3月、36~70頁、査読有

Ei MURAKAMI, "A Comparison of the End of the Canton and Nagasaki Trade Control Systems", *Itinerario*, Vol. 37, Issue 3, 2013年12月, pp. 39-48、査読無

DOI:<http://dx.doi.org/10.1017/S0165115313000806>

村上衛「東アジア」を超えて 近世東ア

ジア海域史研究と「近代」、『歴史学研究』906号、2013年6月、35～44頁、査読無

Ei MURAKAMI, “Traitors” and the Qing Government Policies Directed at the Coastal Residents of Fujian and Guangdong at the Time of the Opium War, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, Vol. 70, 2013年3月、pp. 23-46、査読無

Ei MURAKAMI, The Opium Trade and the Transformation of the Maritime Trade System in Pre-Opium War China: A Reexamination, *Modern Asian Studies Review*, Vol. 4, 2013年3月、pp. 31-57、査読無

〔学会発表〕(計14件)

Ei MURAKAMI, “The Small Divergence within East Asia: Crises in the 19th Century in China and Japan”, Global History Collaborative Workshop, Princeton University, プリンストン (アメリカ), 2014年10月22日

村上衛「清末華南沿海の秩序形成のあり方について」孫文研究会夏期研究例会、於中華会館(兵庫県・神戸市) 2014年7月19日

村上衛「一九世紀中葉廈門苦力貿易的盛衰」東洋史學會 春季學術發表會 於成均館大學校、ソウル(韓国) 2014年5月31日

村上衛「海の近代中国 福建人の活動とイギリス・清朝」招待講演・漢陽大学、ソウル(韓国) 2014年5月30日

Ei MURAKAMI, “The End of the Coolie Trade in Southern China: Focus on the Treaty Port of Amoy”, EHESS Seminar “Critique de l’économie historique”, EHESS, パリ(フランス), 2014年3月10日

Ei MURAKAMI, “Traitors’ and the Qing Government’s Policies toward Coastal Residents of Fujian and Guangdong during

the First Opium War”, EHESS Seminar “La Chine républicaine (1912-1949) : nouvelles approches historiques”, EHESS, パリ(フランス), 2014年3月4日

Ei MURAKAMI, “Opium Trade in the Coastal Area of China before the Opium War”, EHESS Seminar “Vers une histoire des jeux de hasard en Chine, le cas du *fantan*”, EHESS, パリ(フランス), 2014年3月3日

Ei MURAKAMI, “Pirates of Fujian and Guangdong and the British Royal Navy: Pirates along the Coast of Fujian during the Mid-Nineteenth century”, EHESS Seminar “Histoire du Japon moderne et contemporain : permanences et ruptures”, EHESS, パリ(フランス), 2014年2月20日

村上衛「中国近代史研究と「制度」」中国現代史研究会ワークショップ「中国研究の方法論を問い直す - 『制度』をどう捉えるか - 」神戸大学(兵庫県・神戸市) 2014年1月25日

村上衛「海の近代中国 福建人の活動とイギリス・清朝」社会経済史学会近畿部会・経営史学会、関西学院大学(兵庫県・西宮市) 2014年1月11日

村上衛「カントンから開港場へ 19世紀中葉、中国沿海の秩序再編」日文研シンポジウム「日欧交流500年を前に 航路の形成と情報の拠点」国際日本文化研究センター(京都府・京都市) 2013年9月27日

Ei MURAKAMI, “The end of the coolie trade in southern China”, 国際ワークショップ “Sugar and Slavery towards a New World History” 東京大学東洋文化研究所(東京都) 2012年11月19日

Ei MURAKAMI, “Trade and Concession: Opium Trade in Canton before the Opium War”, The Intra-Asian Trade during the

“Long 19th Century: Formation and Dynamics of Regional Commodity Chains”, 16th World Economic History Congress, Stellenbosch University, ステレンボッシュ (南アフリカ), 2012年7月11日

村上衛「晩清時期廈門英籍華人的經濟活動」第4届國際漢學會議、中央研究院台湾史研究所、台北(台湾)、2012年6月21日

〔図書〕(計 9 件)

Ei MURAKAMI, “Trade and Crisis: China’s Hinterlands in the Eighteenth Century”, in Tsukasa Mizushima, George B. Souza and Dennis O. Flynn eds., *Hinterlands and Commodities: Place, Space, Time and the Political Economic Development of Asia over the Long Eighteenth Century*, Leiden and Boston: Brill, 2014, pp. 215-234.

村上衛「晩清時期廈門英籍華人的經濟活動」謝國興編『中央研究院第四屆國際漢學會議論文集：辺区歴史と主体性形塑』中央研究院台湾史研究所、2013年12月、3~44頁

村上衛「第6章 中国經濟の発展と19世紀清朝のふたつの危機」秋田茂編著『アジアからみたグローバルヒストリー 「長期の18世紀」から「東アジアの經濟的再興」へ』ミネルヴァ書房、2013年11月、172~193頁

村上衛「効かない証明書 19世紀末、鎮江における通過貿易問題」森時彦編『長江流域社会の歴史景観』京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、2013年10月、81~101頁

Ei MURAKAMI, “Two Bonded Labour Emigration Patterns in Mid-Nineteenth-Century Southern China: The Coolie Trade and Emigration to Southeast Asia”, in Gwyn Campbell and Alessandro Stanziani eds, *Bonded Labour*

and Debt in the Indian Ocean World, London: Pickering & Chatto, 2013, pp. 153-164.

村上衛「第3部第5章 近代中国沿海世界とイギリス 海賊、海難と密貿易」金澤周作編『海のイギリス史 闘争と共生の世界史』昭和堂、2013年7月、292~305頁

『海の近代中国 福建人の活動とイギリス・清朝』名古屋大学出版会、2013年2月、全688頁

村上衛「第1部第1章 清末の沿海經濟史」・「第2部第1章 中国經濟史關係史料の紹介 清末」久保亨編『中国經濟史入門』東京大学出版会、2012年9月、15~24、269~273頁

村上衛「第3章 經濟史」岡本隆司・吉澤誠一郎編『近代中国研究入門』東京大学出版会、2012年8月、87~115頁

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上 衛 (MURAKAMI Ei)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：50346053

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし